



1. 化学品（製品）及び会社情報

化学品（製品）の名称：	スーパーDR
供給者の会社名称：	前田道路株式会社
連絡先：	〒141-8665 東京都品川区大崎 1-11-3 電話番号：03-5487-0030（受付時間：月曜日～金曜日 9:00-17:00）
推奨用途及び使用上の制限：	道路舗装用途

2. 危険有害性の要約

※本製品は通常、常温で取り扱うものであるが、本製品に使用しているアスファルトは取り扱い時の温度によって危険有害性が大きく異なるため、ここでは条件による危険有害性を明記する。

【常温時】

GHS 分類区分

急性毒性（経口）：	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
急性毒性（経皮）：	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
急性毒性（吸入）：	分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
皮膚腐食性及び皮膚刺激性：	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性：	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
呼吸器感作性：	分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
皮膚感作性：	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
生殖細胞変異原性：	区分2（シンボル：健康有害性、注意喚起語：警告）
発がん性：	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
生殖毒性：	分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
特定標的臓器毒性 （単回ばく露）：	分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
特定標的臓器毒性 （反復ばく露）：	分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
吸引性呼吸器有害性：	区分外（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
水生環境有害性（急性）：	分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
水生環境有害性（長期間）：	分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）
オゾン層への有害性：	分類できない（シンボル：なし、注意喚起語：なし）

GHS ラベル要素

絵表示：



注意喚起語：	警告
危険有害性情報：	遺伝性疾患のおそれの疑い
注意書き：	
安全対策	常温で使用するためにストレートアスファルト等から発生するミスト/煙/蒸気/ヒューム等は発生しにくく、GHS 危険有害性分類には非該当である。 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り合わないこと。 保護手袋を着用すること。
応急処置	ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。
保管	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 保管温度は 5～35℃の暗所で保管すること。 施錠して保管すること。
廃棄	国/都道府県/市町村の法令に従って廃棄すること。

【加熱溶融時】

GHS 分類区分

急性毒性(経口)：	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
急性毒性(経皮)：	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
急性毒性(吸入)：	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性：	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性：	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
呼吸器感受性：	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
皮膚感受性：	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
生殖細胞変異原性：	区分 2(シンボル:健康有害性、注意喚起語:警告)
発がん性：	区分 2(シンボル:健康有害性、注意喚起語:警告)
生殖毒性：	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)：	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)：	区分 2(呼吸器系)(シンボル:健康有害性、注意喚起語:警告)
吸引性呼吸器有害性：	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
水生環境有害性(急性)：	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
水生環境有害性(長期間)：	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
オゾン層への有害性：	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)

GHS ラベル要素

絵表示：



注意喚起語：	警告
危険有害性情報：	遺伝性疾患のおそれの疑い 発がんのおそれの疑い 長期にわたる又は反復ばく露による呼吸器系の障害のおそれ
注意書き：	
安全対策	常温のストレートアスファルトは GHS 危険有害性分類に非該当であるが、加熱時に発生するミスト／煙／蒸気／フューム等には有害性が指摘されており、以下の注意書きとともに記載する。 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 保護手袋を着用すること。
応急処置	ばく露またはばく露の懸念がある場合、医師の診断／手当を受けること。 気分が悪いときは、医師の診断／手当を受けること。
保管	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 保管温度は5～35℃の暗所で保管すること。 施錠して保管すること。
廃棄	国/都道府県/市町村の法令に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：	混合物
化学名または一般名：	スーパーDR
別名：	カットバックアスファルト系常温合材
成分および含有量：	下記のとおり

化学名又は一般名	重量%	化学式	CAS No.	官報公示整理番号	
				化審法	安衛法
ストレートアスファルト（鉱油）	4～6	特定できない	8052-42-4	(9)-1720	(12)-189
A 重油	0～2	特定できない	64742-79-6 101316-57-8	(9)-1700	(12)-137
SBR	0.5	特定できない	非公開	—	—
骨材	94 以下	特定できない	天産物	—	—

化学特性(化学式)：	特定できない
危険有害成分：	特定できない

4. 応急処置

吸入した場合：	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合：	皮膚を速やかに洗浄すること。 多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。 速やかに医師の診断を受ける。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗うこと。
眼に入った場合：	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	口をすすぐこと。 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置

本製品は鉱油及び炭化水素等が7%を含むため、炎に直接接触した場合着火することがあるが、引火性はない。なお、製品乾燥物に着火した場合は次に従う。

消火法：	A B C 粉末消火剤、粉末消火薬剤、泡消火剤、二酸化炭素、砂等を状況により使い分ける。
使用してはならない消化剤：	棒状の水は火災を拡大し、危険な場合がある。
特有の消火方法：	火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火作業は、可能な限り風上から行う。 関係者以外は安全な場所に避難させる。 周囲の設備などに散水して冷却する。 製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。
消火を行う者の保護：	消火作業では、適切な保護具（手袋、保護眼鏡、防毒マスク等）を着用する。燃焼ガスには、一酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、消火作業の際には、適切な呼吸用保護具を装着し、煙の吸入を避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項：	水分を含むと固まるため、河川等に排出し、環境へ影響を起ささないように注意する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。
封じ込め及び浄化の方法及び機材：	飛散の無いようにできるかぎり掃き集めて、回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策：	眼、皮膚への接触を避けるため適切な保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護衣等）を着用すること。
安全取扱注意事項：	接触、吸入又は飲み込まないこと。

眼に入れないこと。
 屋内で取り扱う場合は換気に注意すること。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 破袋につながるような粗暴な取扱いをしないこと。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

接触回避： 『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管

技術的対策： 保管場所の床は製品が浸透しない構造、取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

適切な保管条件： 凍結及び表面乾燥(アスファルト皮膜の形成)に十分に注意し、5～35℃の屋内に保管する。
 貯蔵期間は通常1ヶ月程度である。
 水回りや湿度の高いところに置くと、袋は破れやすくなり、内容物が漏出してしまうので十分注意する。

8. ばく露防止及び保護

管理濃度、許容濃度： アスファルト混合物としては設定されていない。

各物質の管理濃度、許容濃度は下表のとおり。

化学物質名	管理濃度	許容濃度（ばく露限界値）	
		日本産業衛生学会	ACGIH
ストレート アスファルト	1ppm (2014、硫化水素として)	5ppm(2015、硫化水素として) 50ppm(2015、一酸化炭素として)	TWA 0.5 mg/m ³ 1ppm (2014、硫化水素として) STEL 5ppm(2014、硫化水素として)
A重油	設定されていない	3mg/m ³ (2013、鉱油ミストとして)	TWA値 100mg/m ³ (2014、鉱油ミストとして)
SBR	設定されていない	設定されていない	設定されていない
骨材	設定されていない	設定されていない	設定されていない

保護具

呼吸用保護具： 必要に応じて適切な呼吸器保護具を使用すること。

手の保護具： ゴム手袋を着用すること。

眼の保護具： 保護眼鏡あるいは保護シールドを着用すること。

皮膚及び身体の保護具： 必要に応じて保護衣、保護面等を使用すること

9. 物理的及び化学的性質（バインダーとして）

外観（物理的性状、形状、色）： 固体、黒色

臭い： 鉱油臭気

臭いの閾値： 情報なし

pH： 情報なし

融点・凝固点： 情報なし

沸点、初留点及び沸騰範囲： 情報なし

引火点：	約 300°C (バインダーとして)
発火点：	約 480°C (バインダーとして)
蒸発速度 (酢酸ブチル=1)：	情報なし
燃焼性 (固体、気体)：	適用されない
燃焼又は爆発範囲の上限・下限：	情報なし
蒸気圧：	情報なし
蒸気密度 (空気=1)：	情報なし
比重 (密度)：	1.00~1.03g/cm ³
水に対する溶解性：	不溶解
n-オクタノール/水分配係数：	情報なし
自然発火温度 (発火点)：	情報なし
分解温度：	情報なし
粘度 (粘性率)：	情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性：	通常の条件では危険有害な反応は起こらない。
安定性：	常温で暗所に貯蔵・保管された場合は安定である。
危険有害反応可能性：	情報なし。
避けるべき条件：	有機溶剤と接触しないこと。
危険有害な分解生成物	燃焼により煙、一酸化炭素、亜硫酸ガスが生成される。

11. 有害性情報

(主にストレートアスファルトとして)

急性毒性：	急性毒性は低いと推定される。 減圧蒸留残渣油として、 経口 ラット LD50>5000 mg/kg以上 経皮 ウサギ LD50>2000 mg/kg以上
皮膚腐食性及び皮膚刺激性：	減圧蒸留残渣油として、ドレイズテストの結果は刺激性なし。 ただし加熱された溶融アスファルトとの接触は火傷の恐れがあるので注意すること。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性：	常温におけるほぼ固体状態での有害性に関するデータは確認できない。 減圧蒸留残渣油として、ドレイズテストの結果、軽度の刺激性が確認されている。 アスファルト蒸気/フェームによる結膜炎、眼刺激性が複数報告されているが、回復性のものであったとの記載がある。 溶融アスファルトから発生するガスは、呼吸器系や眼の粘膜を刺激する。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	減圧蒸留残渣油については、モルモットに対する皮膚感作性試験において陰性であったとの報告がある。 呼吸器感作性については現在のところ有用な情報なし。
生殖細胞変異原性：	アスファルトフェームまたはアスファルトフェーム凝縮液、アスファルトペイント等による各種試験結果があり、生殖細胞変異原性については陽性/陰性のデータが存在する。 しかしながら in vivo 体細胞変異原性試験/体細胞遺伝毒性試験の陽性結果、並びに in vitro 変異原性試験の陽性結果、さらに本物質は変異原性があるとの記載を総合的に考慮し区分2とした。
発がん性：	道路舗装等のストレートアスファルトによる長期間に及ぶ「アスファルト・エミシヨ

ン」による職業ばく露について IARC は、「グループ 2B」(人に対して発がんの可能性がある)に分類している。なお IARC は「アスファルト・エミッション」を「加熱され気化した物質及び気体、及び気体となったアスファルトが空气中で凝集し、小さな粒となり雲状になったフューム」と規定し、「道路舗装」を「アスファルト混合物製造、運搬、舗設に関わる作業」、「職業ばく露」を「作業者が 1 日に 4~9 時間程度を長期間にわたりさらされること」と規定している。

EU CLP 規則(1272/2008/EC) 付属書 VI Table 3.1 および Table 3.2 に記載されていない。
(有害性として分類されない)

生殖毒性： 現在のところ有用な情報なし。

特定標的臓器毒性

(単回ばく露)： 黒ネズミに対し、針入度級アスファルトを 3 ヶ月毎に 200 mg 皮下注射を行ったが、解剖所見で皮膚腫瘍は見られなかった。
アスファルトフュームに含まれる硫化水素/一酸化炭素により気道刺激性があることが知られている。

特定標的臓器毒性

(反復ばく露)： 常温におけるほぼ固体状態での有害性に関するデータは確認できない。
アスファルトフュームの吸入試験(マウス、6~7h/日、5日/週で 21 ヶ月)で気管浸潤、気管支炎、肺炎、腫瘍、繊毛損失、上皮萎縮および皮膚肥厚が認められた。
ヒトにおいて、フュームの吸入経路で鼻炎、口咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、フュームの経皮暴露では皮膚炎、ざ瘡(にきび)様の病変、軽度角化症が報告されている。また実験動物において、マウスを用いた吸入毒性試験において呼吸器に影響が見られているが、暴露濃度の記載がなく分類に用いることはできない。
ヒトにおいて呼吸器系に影響が見られていることから区分 1(呼吸器系)とした。
CAS 番号:8052-42-4 が 5% \geq 1%のため、区分 2(呼吸器系)に該当する。
吸引性呼吸器有害性： 動粘性率が 8000mm²/s 以上であるので区分外。

12. 環境影響情報

生態毒性： 現在のところ有用な情報なし。

残留性・分解性： 残留性
アスファルト混合物は道路舗装等への施工後は、蒸発することなく安定しているが、道路舗装や屋根防水等の工事のために加熱する際、フュームを発生する。発生したフュームはすぐに凝縮、沈降して土壤に吸着する。フュームの揮発成分は大気中のヒドロキシラジカルと反応する。水中では、アスファルトの分散性は乏しく、浮くか沈むかである。土壤では移動性はない。

生分解性

アスファルトの水生環境における生分解の研究例は見当たらない。しかし、数百年にわたって道路舗装や屋根防水に利用してきた経験から、アスファルトは明らかにいつまでも持続する(分解しない)物質であり、生分解性がないことが特徴でもある。

生体蓄積性： アスファルトの構成成分の logKow は 6 以上なので生体蓄積性があると判定されるが、実際には、極めて水に難溶であり、このような高分子量の物質が水中生物の体内に取り込まれることは考えにくい。

土壌中の移動性： 土壌中では移動性はない。
オゾン層への有害性： 情報なし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

1 4. 輸送上の注意

国内規制

陸上規制： 道路交通法、非危険物
海上規制： 船舶安全法、非危険物
航空規制： 航空法、非危険物

国際規制

国連番号： 該当しない
特別安全対策： その他法令の定めるところに従う

1 5. 適用法令

労働安全衛生法： 令第 18 条(表示対象物)及び令第 18 条の 2(通知対象物)アスファルト、鉱油
則第 594 条の 2(皮膚等障害化学物質等)アスファルト

化学物質排出把握管理

促進法 (PRTR 法)： 非該当
毒物劇物取締法： 対象物ではない

廃棄物の処理及び

清掃に関する法律： 産業廃棄物規制

1 6. その他情報

参考文献： 「製品安全データシートの作成指針」 日本化学工業協会
「化学物質の危険・有害性便覧」 中央労働災害防止協会
「危険物、毒物処理取扱いマニュアル」 海外技術資料研究所
「許容濃度等の勧告」 日本産業衛生学会
ACGIH (7th, 2001)
WHO/IPCS: 「国際簡潔評価文書 (CICAD)」 Vol. 59 (2005)
IARC (2013) Monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans. Vol. 103.
ドイツ学術振興会 (DFG) "Occupational Toxicants Critical Data Evaluation for MAK Values and Classification of Carcinogens" Vol. 17

作成履歴： 2002 年 4 月 1 日作成
2016 年 3 月 8 日改訂
2018 年 7 月 1 日改訂

2022年4月1日改訂

2024年12月6日改訂

製品安全性データシートの記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有物・物理化学的性質等の数値が保証値ではありません。また注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途、用法に適した安全対策を実施の上ご利用ください。記載内容は情報の提供であって、保証するものではありません。